

手紙 二

宮沢賢治

青空文庫

インドのガンジス河はあるとき、水が増して烈しく流されていました。

それを見ている沢山の群集の中に尊いアシヨウカ大王も立たれました。

大王はけらいに向つて「誰かこの大河の水をさかさまにながれさせることのできるものがあるか」と問われました。

けらいは皆「陛下よ、それはとても出来ないことでございます」と答えました。

ところがこの河岸の群の中にピンズマティーと云う一人のいやしい職業の女がおり

ました。大王の間をみんなが口々に相伝えて云っているのをきいて「わたくしは自分の

肉を売って生きているいやしい女である。けれども、今、私のようないやしいものでさえ

できる、まことのちからの、大きいことを王様にお目かけよう」と云いながらまごこ

ろこめて河にいのりました。

すると、ああ、ガンジス河、幅一里にも近い大きな水の流れは、みんなの目の前で、たち

まちたけりくるつてさかさまにながれました。

大王はこの恐ろしくうずを巻き、はげしく鳴る音を聞いて、びっくりしてけらいに申され

ました「これ、これ、どうしたのじや。大ガンジスがさかさまにながれるではないか」

人々は次第しだいをくわしく申し上げました。

大王は非常ひじょうに感動かんどうされ、すぐにその女の処ところに歩いて行つて申されました。

「みんなはそちがこれをしたと申しているがそれはほんとうか」

女が答えました。

「はい、さようでございます。陛下へいか」

「どうしてそちのようないやしいものにこんな力があるのか、何の力によるのか」

「陛下よ、私のこの河をさかさまにながれさせたのは、まことの力によるのでございます」

「でもそちのように不義ふぎで、みだらで、罪深つみふかく、ばかものを生けどつてくらしているもの

に、どうしてまことの力があるのか」

「陛下よ、全くおつしやるとおりでございます。わたくしは畜生ちくしょう同然どうぜんの身分みぶんでございます

ますが、私のようなものにさえまことの力はこのようにおおきくはたらきます」

「ではそのまことの力とはどんなものかおれのまえで話してみよ」

「陛下よ。私は私を買つて下さるお方には、おなじくつかえます。武士族ぶしぞくの尊とうといお方をも、

いやしい穢多えだをもひとしくやまいます。ひとりをつとびひとりをいやしみません。陛下

下よ、このまことのところが今日こんにち日ガンジス河がわをさかさまにながれさせたわけでございま

青空文庫情報

底本：「ポラーノの広場」角川文庫、角川書店

1996（平成8）年6月25日初版発行

底本の親本：「新校本 宮澤賢治全集」筑摩書房

1995（平成7）年5月

入力：ゆうき

校正：noriko saito

2009年7月16日作成

2009年8月15日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

手紙 二

宮沢賢治

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>